

掛川市の維持向上すべき歴史的風致

計画期間 平成29年度(2017)～平成38年度(2026)

本市は、戦国時代に戦略上の重要な拠点として掛川城、高天神城及び横須賀城の3つの城が築かれ、多くの武将が戦いを繰り広げた地であり、掛川城下及び横須賀城下では城下町が形成された。江戸時代になると東海道沿いに掛川、日坂の2つの宿場町が栄え、交通・文化の中心地として発展してきた。市内の各地に、当時の面影を残す歴史的な建造物とともに、祭りに代表される伝統的な活動や営みが残されている。

明治維新前後には、倉真の岡田佐平治と長男の良一郎が、掛川藩の復興事業として精力的に報徳運動を展開し、農村生活や庶民教育を向上させた。大日本報徳社で行われる常会は、明治から140年間続き、報徳運動が市民に根づいている。また、本市は古くから茶産地として有名で、平成25年(2013)には、生物多様性を保全する伝統的な農法「静岡の茶草場農法」が世界農業遺産に認定された。

このような歴史的建造物と市民の織りなす伝統的な活動が一体となって、本市固有の歴史的風致を形成している。

報徳運動にみる歴史的風致

本市での報徳による活動は、倉真に報徳社が創られた江戸時代末期から始まった。

大日本報徳社大講堂で長年続けられている常会によって、報徳運動は市内に広がり、現在のまちづくりにつながっている。至誠・勤労・分度・推譲の教えが市民に根付き、地域のための活動により、良好な歴史的風致が形成されている。



大日本報徳社建造物群と二宮金次郎像

掛川城下の祭りにみる歴史的風致

掛川祭は、複数の神社の氏子が参加する合同祭礼で、中でも龍尾神社、神明宮、利神社の祭礼は、江戸時代から続いている。3年に一度の大祭のときには、瓦町の「かんからまち」などの三大余興が登場する。

掛川城御殿などの城下町・宿場町の歴史を伝える街並みと屋台、手踊り、獅子舞などが一体となって、良好な歴史的風致が形成されている。



掛川城天守閣と瓦町の「かんからまち」

横須賀城下の祭りにみる歴史的風致

横須賀城の城下町だった横須賀街道には、由緒ある神社や風情ある建造物が建ち並んでいる。

横須賀城主がこの地にもたらした江戸の祭り文化は、江戸時代から連綿と継承され、今日の三熊野神社大祭に至る。横須賀街道と祭り好きの「ねりきち」と呼ばれる人々によって、良好な歴史的風致が形成されている。



三熊野神社大祭

掛川茶の生産にみる歴史的風致

本市は、国内屈指の茶産地として知られ、特に東山地区とその周辺では伝統的な茶の生産が伝えられている。

粟ヶ岳にある「茶文字」のシンボルのもと、丘陵地を利用した茶畑と明治期から残る農家住宅がモザイク状に点在している。茶への感謝と、伝統的な農法が脈々と受け継がれ、自然と共存した良好な歴史的風致が形成されている。



新芽の手摘み

事任八幡宮例大祭にみる歴史的風致

日坂・八坂地区には、事任八幡宮のほか旧東海道日坂宿の旅籠など、歴史を伝える建造物が建ち並ぶ。

こうした中、江戸時代から事任八幡宮例大祭が行われている。軒花で彩られた風情ある街並みの中、絵巻に残る神輿渡御などの伝統的なしきたりが引き継がれ、この地に良好な歴史的風致を形成している。



神輿渡御

高天神城と周辺集落の祭りにみる歴史的風致

土方・中地区には、高天神城跡と6つの砦、城を守護する神社など、歴史的建造物が残り、祭りを通して郷土の歴史と伝統が伝えられている。

春に高天神社例大祭、秋に小笠神社の矢矧祭と八坂神社の祇園祭りが行われ、周辺集落の人々の活動によって良好な歴史的風致が形成されている。



八坂神社の祇園祭り



